

令和 8 年 3 月 17 日
中央エフエム株式会社

令和 7 年度 第 2 回 放送番組審議委員会

1. 開催場所 本社スタジオ
2. 開催日時 令和 8 年 3 月 16 日 (木) 16:30~18:00
3. 出席者 (審議委員) 今給黎 辰郎委員長、高田 修委員、堀内 美佳委員、近藤 紀代子委員、齊藤 大地委員 委員総数 5 名のうち出席委員数 2 名(うち 1 名はオンライン)
*欠席者: 齊藤 大地委員、堀内委員 (事前にコメントご提出済)
(中央エフエム出席者) 代表取締役社長 岩寄いづみ/中田永一

委員会次第

1. 開催のご挨拶 (中央エフエム 岩寄より)
2. 委員のご紹介・ご挨拶
3. 審議: 審議番組名: シーボルトがやってくるヤアヤアヤア! ~江戸参府 143 日~
(第 1 回/2026 年 2 月 1 日 OA 分/毎週 日曜日 11:00-11:30)
4. 番組概要: 2026 年に 200 周年を迎えるフィリップ・フランツ・フォン・シーボルトが参加した江戸参府。この参府の中心地(目的地であり、最長宿泊地)の日本橋を中心に、中央区の観光資源であるシーボルト父子の功績を伝える特別番組。

<番組審議内容・各委員からの講評>

【今給黎委員長】

- ・歴史の勉強が出来た反面、初めて聞く言葉が多く (熙代勝覧など)、知識がない人への導線が無いのがもったいなく感じた。歴史好きを前提に話が進んでいるようで取り残されているように感じる人も多いかも知れない。
- ・番組の冒頭にシーボルトや番組テーマの説明を入れるべきだと思う。

【高田委員】

- ・シーボルトというと長崎のイメージがあったが、日本橋でも活躍した魅力的な人物であることを知れた。
- ・良くいえば話題が盛り沢山だったが、話題が多方向に行ってしまったようにも感じる。

【堀内委員】

- ・ゲストが多い中、話をまとめたナビゲーターの JUMI さんに感心した。
- ・小学校の社会の授業などでもあまり触れられないシーボルトという人物を特集することに意義を感じた。
- ・番組中の着地点を明確にすべきだと思う。

【近藤委員】（書面にて）

- ・シーボルトは医者だったことは知ってはいても、薬や珈琲との繋がりがあったことなど当日江戸の人たちに大きな影響を与えていた事までは知らず、末裔の方のお話をもっと聴きたくなった。
- ・当時の江戸の町はどんなに楽しく夢があっただろうなと思いが膨らんだ。

【斎藤委員】（書面にて）

- ・2026年に200周年を迎えるシーボルトの江戸参府について、日本橋という場所を中心に紹介されていたことで、中央区の歴史や魅力を改めて感じる事ができた。これまで断片的にしか知らなかったシーボルトの功績についても理解が深まった。
- ・生放送ならではのリアルな空気感も心地よく、ラジオだからこそ伝わる温度を感じた。最後のお別れの挨拶も印象的で、放送の余韻が残る素敵な締めくくりだった。

以上